

特集:

- ・『ポジティブ・シンキング』で元気になろう
- ・行ってきました研修会
- ・23年度
実習指導者講習会
- ・人材確保・定着対策事業

最新ニュース:

災害ボランティア体験記②

「感じる・考える」

研修報告・研修案内

はれときどきにじ

「工夫してます☆」

事務局だよ

『ポジティブ・シンキング』で元気になろう

7月9日(土)、とみうら元気倶楽部にて君津ブロック研修会が行われました。

テーマは『ポジティブ・シンキング』で元気になろう。元気の源、会員の村越洋子氏を講師に、楽しい研修会となりました。



参加者の久保和子さんより
寄稿をいただいています。

「7月9日、暑い日差しが照りつける中、南房総市とみうら元気倶楽部で開催された、君津ブロックの研修会・交流会に参加させていただきました。テーマは『ポジティブ・シンキングで元気になろう』。講師は元気いっぱい、迫力満点の村越洋子先生で、開始早々「椅子を片付けて輪になりましょう」の掛け声に、何が始まるのかとドキドキ、ワクワク。笑いは人の精神機能を安定させ、気持ちが明るくなると、笑いヨガが始まりました。大きな口を開けて「ハッハッハッ」。向かい合って！手をつないで！舌を出して。と村越先生の指示が飛び、「ハッハッハッ」。お互いの顔を見て、会場中大笑い。何かとてもハッピーな気分になってきました。

笑い療法は、認知症予防にもなり、症状の見られる方も大笑いすることにより、脳内の幸福ホルモンを分泌させ気分が前向きになるとのこと。職場で実践してみよう！と思った楽しい時間でした。

午後からは、相手を尊重しながら自分の言いたい事をもはっきり伝える方法、「アサーション」を学びました。演習シートを使ってのアサーティブな表現では、午前

の前向きな気持ちが持続しているのか、グループごとにプラス思考の名答・珍答・迷答が発表されました。

その後の交流会では、参加者同士が日頃の思いを時間いっぱい、忌憚なく述べ合い、外の気温よりも熱い、充実した研修会を終えることが出来ました。

○介護だけでなく、どの職業・どの生活にも『ポジティブ思考』は大切です。

同じ事をするのにも、前向きか後ろ向きかで出来(結果)が変わってくると思いませんか？

また同じ結果でも、後ろ向きだと不安が残ったりして・・・。

人生、満足できるかどうかは心の持ち方かもしれませんね。

これからも、楽しい研修を企画していきます！



※実際のご利用者・ご家族とは関係ありません

行ってきました！研修会（東部ブロック研修会）

広報委員が「取材」ではなく、自ら参加して感じた事を報告するコーナーです。

今回は、6月12日（日）に東部ブロックで行われた「ゆりの木苑」の施設見学です。

東金市にある「ゆりの木苑」は、在宅サービスと施設サービスを兼ね備えている施設でした。

（グループホーム）

9名が生活できるユニットが2つあり、ゆったりとした居室で編み物ができたり、手作りの家庭菜園があり、家庭的な雰囲気は何えました。

（1階 デイサービス）

幅広いニーズに対応されています。ベッドが必要な方、BPSDのある方など、ワンフロアで上手くスペースわけが出来ており、各スペースに担当のスタッフがつき、レクなども能力に応じて出来るように工夫されていました。

スタッフの方々が、利用者様の能力に応じて自立できるよう、畳にウッドカーペットを使用するなど、環境を整える工夫がされていました。

見学当日は外出レクを計画されており、レク活動も充実している様子が伺えました。

（3階 ケアハウス）

屋上庭園が充実していて、家庭菜園や露天風呂があり、快適な環境が提供されていました。

見学時、スタッフの方と利用者様が体操されており、自立した生活の中で集う場が提供され、コミュニケーションがとれるよう配慮されていました。

（2階 特別養護老人ホーム）

出入口はオートロックが設置されていました。

清掃の委託で、棟内の清掃が行きとどいていて、とても綺麗でした。

センサーなどの使用で、転倒防止などの対策がされていました。

（1階 ユニットケア）

ワンユニット10室で、3つ配置されていました。

各ユニットはスタッフが固定されており、家庭的な雰囲気でした。また、面会時に部屋でもくつろげるような造りで、家具なども持ち込めるようになっていました。

各施設が併設されており、1度に各施設を見学できてとても充実した施設見学となりました。

見学した中で、それぞれの施設が連携し、利用者様のADLの状態により浴室を共有できるというところがとても印象的でした。

また、私達の質問にも、明快に受け答えして下さい、とても参考になりました。

ゆりの木苑のスタッフの皆様、お忙しい中見学させていただき有難うございました。

（斉木）

こんなご意見をいただきました

施設見学に参加された方から、ご意見をいただきましたので紹介します。

○先日は大変お世話になりました。お陰さまで、良いアドバイス&リフレッシュで、翌日より元気いっぱい働いています。

○ゆりの木苑様には、広い施設の全部をご案内いただき、皆様業務繁忙の中、説明と質問にも丁寧にお答えくださいまして、心より感謝しております。

在職中、勤務した2か所の職場以外は知りませんでしたので、とても興味深く見学させていただきました。

皆さん、とても刺激になった施設見学となったようです。

最後に、ブロック長よりコメントを。

見学参加者を2グループに分けて、説明をしていただきながら回ったので、ゆつくりと充実した見学になりました。

グループホーム・ケアハウス・特養・ユ

ニットケア・デイサービスと、全施設を見学させていただき、それぞれ職員の方よりお話を伺え、利用者の方々の笑顔や暖かい歓迎を受けました。介護の仕事をしています現場で頑張っている姿を感じさせてもらい、力をいただいた研修でした。

昼食後は、参加者の感想を伺いながらの交流の場となりました。

自職場や福祉活動等の、また新たな刺激となりました。

他ブロックの会員の参加があり、良き縁となりますように！

23年度介護福祉士実習指導者講習会が始まりました



厚生労働省 社会・援護局
福祉基盤課 福祉人材確保対策室
介護技術専門官 片山 聡子氏

今年度も「介護福祉士実習指導者講習会」が始まりました。

第1回は5月21・22日と6月18・19日の4日間。

これまでに約400名の実習指導者を輩出しているこの講習会ですが、第1回目も定員を超える多数の申し込みがありました。

千葉県の実習指導者講習会は、4日間の講習終了後に『すぐ』実践できる、即戦力となる内容であることが特徴です。

様々な研修会で活躍している講師陣が、時には笑いを、時には緊張を盛り込みながら講義をしています。また、聴講だけではなく多くの時間をグループワークに充てています。グループワークは、他者の意見を聞く事で自分だけの解釈ではなく、視野を広げることができます。そして、コミュニ

ケーション技法の訓練にも繋がっていきます。

最終日の19日には、厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課 福祉人材確保対策室の介護技術専門官、片山聡子氏が視察にみえました。

実習指導者が担う役割の重要性を再認識した1日となりました。

23年度はもう1回開催されます。

多くの実習指導者がその実力を発揮し、不安と緊張を抱えた実習生たちを支えて、将来の有望な福祉人材を育ててくださることをスタッフ一同、期待しています。

人材確保・定着対策事業(葛南地区)

7月1日、市川にあるアイリンクルームにおいて、葛南地区の人材確保・定着対策事業が行われました。

テーマは「基本介護技術」。50名の参加者が、介護の基礎を学び・振り返りました。

当日は10名ほどのグループに分かれ、講義とデモンストレーションの後に、それぞれが演習を行いました。

様々な年齢、違う業種、経験年数の差がありましたが、教え合い確認し合って、とても充実した研修となりました。



今回の研修には、事業委員会が手掛けた『快互(かいご)の教本』を使用しています。「基本」と言っても、昔から(例えば職場の先輩から代々受け継いできた)方法ではなく、利用者・介護者双方に負担のない、目からうろこの新しい「基本」です。

講師の小島弘子会員がわかりやすく説明した後、まず目で見て説明の解釈をし、グループで演習を行ったため、戸惑うことなく技術の習得ができたのではないのでしょうか。また、「今まではここがきつかった」「もっとこうやったらいいのでは」など、活

発な意見交換も行われていました。

どの研修会でもそうですが、他者の方法や考えを聞き取り込むことで、またそれを伝達することで、自分の殻を破ることができ、成長できます。

参加者には資料として『快互の教本』をお配りしましたので、ぜひ、自分だけではなく、同僚に、職場全体に広めていただきたいと思います。

「介護」は辛いものではなく、楽しいもの。援助途中の利用者の笑顔が見られると嬉しいですね。できれば、「痛い」は聞きたくないです。「痛く」なければ利用者の行動はどんどん拡大していきます。

今回の参加者から「快互」の輪が広がっていくことを期待します！

※「快互の教本」購入等については、事務局へお問い合わせください。



災害ボランティア体験記②

感じる・考える



私が伺った5月下旬は、大震災から2か月が過ぎ、テレビ報道等で「避難所生活の被災者の方の食事の提供も、ほぼ心配なくできる状態になっている」となっていました。が、現実は違いました。

緊急福祉避難所での食事内容は、野菜不足解消のため、「濃縮還元野菜ジュース」「ウイダーインゼリー」「カロリーメイト」等が多いのが現状でした。もちろん、お味噌汁やお粥の日もありましたが…。

高齢者がこのような人工的な食品を好むはずもありません。みかんやパイナップルの缶詰を、「食事があるだけでありがたい」という気持ちで、1日2回提供の食事をうまく3回分に分けて食べられていました。

宮城県介護福祉士のI氏が言われていたことですが、「阪神大震災の時とは違い、地域性として、困っていても声に出して言わない地域である」。まさにそのとおりであることを痛感しました。

災害ボランティア体験記第2回目です。今回のテーマは「地域性について…」。

最近、テレビでの報道も少なくなってきていますが、現地の状況が改善されているわけではありません。

小松さんはどう感じたのでしょうか？

日本介護福祉士のK氏から携帯に連絡が入ったのは、5月17日のことでした。東日本大震災後、千葉県介護福祉士会に「ボランティア登録したのはいつだったのかしら?」「日本介護福祉士会から直接連絡が入るんだ」と考えながら、職場の協力を得て休暇を取得し、出発日までの1週間に、ボランティアの鉄則である「自己完結」のための荷物準備をして宮城県へ向かいました。

服薬と共に待っているとのことでした。

私個人の考察ですが、これから起こりうる災害に対して、行政の混乱も予想される中、職能団体として早期から、それぞれの地域で緊急福祉避難所の機能とその必要性を訴え、災害直後から安心して暮らせるように提言していきたいと思っただ次第です。

「今」だけを改善するのではなく、これから先の状況もしっかり考えなければなりませんね。

事例で紹介します。

Yさん 80歳半ば パーキンソン

家族 60歳代半ば

大震災時は、車で2時間かかる山形県の病院に入院中でしたが、退院に当たり、自宅は被災しているため帰れず、移ったのは宮城県亘理町の体育館の避難所でした。

ご家族が行政に相談したそうですが、「まずは避難所に移るように」とのことでした。

4日間はその避難所で過ごしましたが、状態の悪化が顕著であり、緊急福祉避難所へ移動してきたとのことでした。

震災直後で行政も混乱していたと思われるが、配慮が必要であったと感じた次第です。

その後、福祉避難所での生活で身体状況も安定され、仮設住宅の抽選結果を、大量の



研修報告

〇6月18日(土)

「コミュニケーションを大切にした 生活支援援助」

- ・介護方法について意見を出し合いながら、お互いの介護方法について教え合っていました。
- ・再度行ってもらいたいとの意見がありました。(堀越 記)



〇7月10日(日)

「認知症ケアとセンター方式 Part1」

(アンケートより)

- ・とても勉強になり、自分の施設に持ち帰ってできることを考えていきたい。
- ・認知症の「人」への介護の基本姿勢(穏やか、明るく、できることを大切に介護)を改めて考えさせられました。
- ・センター方式を在宅で活用。楽しみです。
- ・エピソード記憶のメカニズムが分かったのと、ケアする側がもっと本人の内面を見ることが大切だと再認識しました。
- ・いかに介護過程が大事か分かりました。
- ・村越先生には、もっともっと現場への事、介護への思いについてお話をお聞きしたい気持ちでいっぱいです。
- ・以前も同じことを研修していたはずなのに、生かされていない自分に気づきました。とても良かったです。

※「次回も絶対参加します」とのご意見がとても多かったのですが、このようなご意見も...

「時間が長すぎます。人間の集中力が持続するのは20分間のみなのです。午後は眠くなって、ほとんど頭に入りませんでした。自ら意欲を持って参加している方は良いですが、私のように、会社からの指示で仕方なく参加している人間には苦痛でした。

短時間の方がまだ集中して聞けます。」

〇9月11日(日)

「認知症ケアとセンター方式Part2」

- ・2度目の開催で、前回参加者も多く、理解を深めていただけたと思います。
- ・工夫として、グループワークを中心として行い、良い評価を受けました。
- ・良い研修になって良かったです。(村越 記)

〇初任者研修(第1回～4回)

第1回

・午前午後の授業と共に、講義だけではなく演習も含めていたので、受講者は楽しそうに行っていました。

第2回

・午前中は「福祉用具の意義」について千葉西総合病院 理学療法士の福家晶子氏に講義してもらいました。福祉用具の目的などの説明の後、事例についての演習を行いました。

・午後は「より良い介護を目指した介護技術」について成田国際福祉専門学校 吉田友子氏・佐藤和子氏に講義してもらいました。移動・食事・排泄について講義してもらった後、ベッドと車いすを使って、移乗介助等について実技を行いました。

4日間とも、受講者は真剣に取り組まれました。(志摩 記)

〇7月9日(土)

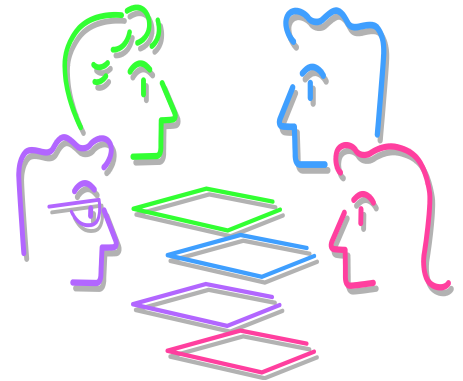
「ポジティブ・シンキングで元気になろう」

・講義も交流会も非常にわかりやすく楽しい会で、皆さんに喜んでいただきました。初参加の方(南房総)との交流もよくできました。(小川 記)

〇8月21日(日)

「介護支援専門員実務者研修」

・当初募集の時点で、参加者が非常に少なく、途中で研修の中止を検討しましたが、声掛けや再度の募集により、実施することができました。参加していただいた方、ありがとうございました。(東間 記)



沢山のご参加、ありがとうございました。様々な意見や感想を伺っている中で、良い評価ばかりいただくわけではありません。その貴重なご意見に柔軟に対応すべく、担当委員は頑張っています。これからも、忌憚ないご意見をいただきたいと思います。

研修案内

○介護福祉士国家試験模擬試験

9月25日(日) 福祉教育カレッジ(基礎編)

10月29日(土) 中央法規(実力編)

11月13日(日) 福祉教育カレッジ(応用編)

12月11日(日) 全国一斉模試

※詳細はインターネットをご覧ください

○君津ブロック 第2回研修会

日 時:10月8日(土) 13:30~15:30

テーマ:「重度障害者の自立生活を支える
(当事者の願い、介護側の想い ともに歩み寄るために)」

講 師:アイバード生活支援センター代表 吉岡 久一氏
居宅介護支援アイバード管理者 箱田 純子氏

会 場:君津市生涯学習センター 101号室

定 員:30名

参加費:会員・準会員 500円
一般 1000円

締 切:9月30日(金)

○南部ブロック「介護の日」

日 時:10月29日(土) 10:00~15:00

テーマ:「楽しく介護術」

～介護は無理なく、介護専門職と一緒に～

会 場:アスモショッピングセンター・センターコート(茂原市)

※福祉人材確保・定着対策事業の一環として開催しています。

ちょっとした工夫で介護への負担は少なくなります！！

介護サービスを利用するメリットをお知らせします！！

介護専門職って、こんな仕事です！

資格を持っているのに今、未就労のあなた！一緒に働きませんか！

○南部ブロック研修会

日 時:10月2日(日) 13:00~16:00

テーマ:介護技術ステップアップ研修会

～住み慣れた我が家での介護は
ヘルパーと共に～

講演:「基本に戻って介護力をアップしよう！」

講 師:城西国際大学 福祉総合学部

准教授 松下 やえ子氏

会 場:長生共楽園

定 員:30名

参加費:無料

同じ地域で働く介護職のみなさん！

職場研修の質を高めましょう！

自信を持って仕事し続けましょう！

※福祉人材確保・定着対策事業の一環として
開催しています。

○南部ブロック研修会

日 時:平成24年2月25日(土) 13:00~16:00

テーマ:介護技術ステップアップ研修会

～住み慣れた地域での暮らしを支えるために！～

「個別対応の介護技術

移乗・移動動作・着替え・食事介助など

～実際に動いてみよう～

講 師:帝京大学ちば総合医療センター・リハビリテーション部

作業療法士 多田 智氏

会 場:睦沢町社会福祉協議会(むつざわ福祉交流センター内)

定 員:30名

参加費:無料

※人材確保・定着対策事業の一環として開催しています。

介護福祉士・訪問介護員2級取得者を対象に、専門性をより高め自信を持って介護業務を継続できるよう、心のケアと技術の研鑽を図ります。

はれときどきにじ 「工夫してます☆」

成田市・介護老人保健施設

2009年4月の介護保険改定により、口腔機能維持管理加算(30単位/月)が新設されたため、当施設でも本格的に口腔ケアへの取り組みを始めました。

しかし、初めはスタッフの間で「毎食後に口腔ケアを実施する」ことにはかなり抵抗がありました。

そこで、取り組み方を工夫してみました。

[取り組み内容と工夫]

<1年間の目標計画を作成>

※目標 「毎食後の口腔ケアの徹底と
嚥下体操の実施」
合言葉は、無理をせず1人から！でした。

<工夫内容>

1. 夕食後の1日1回の口腔ケアは実施していたので、まず、昼食後の口腔ケアから取り組みを行いました。

・昼休憩を見直し、歯ブラシの代わりに 管理のしやすいタンゲットを使用しました。

・嚥下体操は、色々なパターンの資料を配布し、スタッフ1人1人に持ち味のある体操を実施してもらい、ワンパターンにならないようにしました。



2. 「なぜ口腔ケアが必要か」勉強会を行いました。

・口腔・摂食嚥下の内容を2回に分け、4回実施し、疑似体験を取り入れてわかりやすくしました。

3. 療養者様とスタッフを交えての歯磨き指導を行いました。

・歯の模型を使用したブラッシングの練習と、歯垢をチェックする赤い液体(市販の物)を使用して義歯や口腔内のどこに磨き残しがあるか確認できるようにしました。

4. 感染防止対策(感染係との連携)

・コップ、歯ブラシ等の衛生管理は感染係と話し合い、消毒方法を明記して掲示しました。

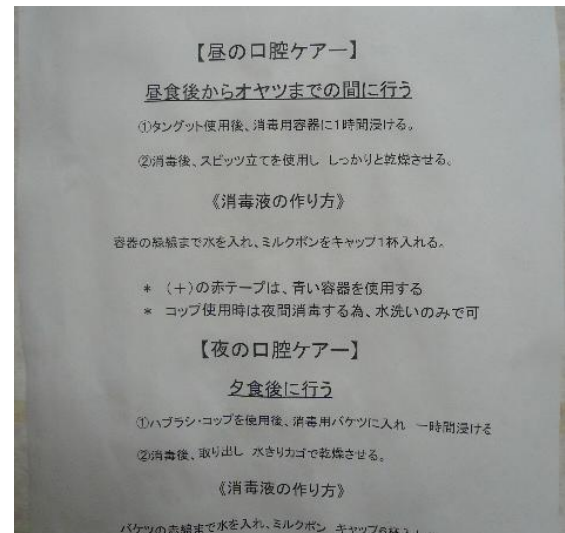


<結果>

勉強会や歯磨き指導を行ったことで、口腔ケアに対する意識が高まり、昼食後のタンゲットの使用では療養者様の舌の清掃から始まり、日を重ねるごとに歯肉の状態が良好となりました。

半年が過ぎると、スタッフも療養者様も習慣が付き、昼食後に歯ブラシを使用できるようになり、それと同時に、朝食後の口腔ケアでも「歯磨きをしたい」と訴えが出るようになりました。

その後は毎食後に口腔ケアを行えるようになり、目標を達成することができました。



一般社団法人
千葉県介護福祉士会

〒260-0026
千葉市中央区千葉港 4-3
千葉県社会福祉センター
3階

TEL:
043-248-1451

FAX:
043-248-1515

E-MAIL:
Kai5niji@poem.ocn.ne.jp

編集: 広報委員会・広報委員長

皆様からのご意見やご質問
をお待ちしています。
何でもお知らせ下さい!

理事会報告

23年度

第4回 23年6月25日(土)

出席者 16名 委任状 8名

(内容)

各委員会の事業の進め方について

千葉県認知症対策推進協議会委員の選出

各委員会議題・報告

第5回 23年7月24日(日)

出席者 12名 委任状 14名

(内容)

関東・甲信越ブロック会議及びリーダー研修について

日本介護福祉士会 選挙管理委員会推薦者について

地域支えあい体制づくり事業について

事務員採用について

医療行為の研修について

各委員会報告

会員数

(9月5日現在 808名)

東葛ブロック 173名

千葉ブロック 161名

君津ブロック 103名

東部ブロック 85名

南部ブロック 74名

北総ブロック 212名

準会員 5名

新会員紹介(正会員で同意された方のみ 敬称略、順不同)

白幡 正美(東部) 打木 美香(東葛) 麻生 直美(北総) 水落 利子(東葛)
白石 悦子(東部) 中村 美佐子(南部) 大川 真喜子(千葉) 栗野 正之(東葛)
西川 優子(北総) 野澤 和代(北総) 杉山 紋子(東葛) 村山 千恵子(北総)
横川 江梨子(東葛) 永島 美由紀(千葉) 千野 統(北総) 生稲 裕子(千葉)
小出 みどり(北総) 島 清美(君津) 石坂 郁男(北総) 小笠原 一志(北総)
梁田 直子(東葛) 池田 弘美(北総) 椎名 緑(東部) 村上 眞一(東葛)
高橋 喜久枝(東葛) 黒土 弘子(東部) 常木 清高(千葉) 大山 志津江(君津)
佐久間 眞弓(北総) 平岡 光太郎(北総) 渡邊 智子(東部)

※()内はブロック名

事務局だより

- ・8月より新しく事務員が採用されました。大金 智絵さん 週2日勤務です。
- ・会費は納入されているのに、申込用紙が届いていない方がいます。
- ・登録番号が申込書に記載されていない方は、会員証や生涯研修手帳の手続きができませんのでお知らせください。尚、会員証発行までには多少時間がかかりますこと、ご了承ください。
- ・23年度会費納入の締め切りは過ぎていきますので、未納の方は早めにお問い合わせください。(220名の方には、再度振込用紙を送らせていただきます。)

編集後記

節電対策のためもあって、今年は早いうちに「クールネックタオル」を買ってみました。3種類くらい買って、やっとお気に入りを見つけました。これで「仕事に集中! ちゃきちゃき動く!」と意気込んでいましたが、脱水対策に1日1個のアイスクリームのおかげで、動けません。

まだまだ暑い日が続きます。皆さんも脱水にはお気をつけて。

(岩)